

宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

ひらかわ あらた  
平川 新

未来への航路

古文書のレスキュー

本間さんとは2000年に発足した石巻若宮丸漂流民の会で、一緒に、石巻の本間英一さんから電話が入りました。3月11日の大津波で一棟だけ土蔵が残った、中に古文書がある、と。日和田山ふもとにある本間さんの広大な屋敷地には、住宅2棟、土蔵2棟、醸造蔵と板倉が立ち並んでいました。津波でほとんどが破壊されたのですが、土蔵1棟だけが奇跡的に流出を免れていたのです。

4月4日に門脇を訪ねましたが、あたり一面はガレキの山。近くの門脇小学校は焼けただれていました。その惨状を目の当たりにして、息をのむ思いでした。土蔵もガレキのなかに埋もれていたのですが、自衛隊がガレキを除去したところ、土蔵は姿をとどめていました。前年に、この土蔵の基礎を固める工事をしていただいたのが幸いしたとのことでした。土蔵の1階は水浸しになりましたが、2階までは浸水しておらず、保管していた古文書や古い写真などは幸



ガレキを撤去したあとの本間家土蔵

⑤東日本大震災と本間家土蔵

い無事でした。NPO法人宮城資料ネットと東北歴史博物館のメンバー10人ほどで4月8日にレスキューを実施し、土蔵から段ボール60箱ほど運び出して東北歴史博物館で保管してもらったのです。

土蔵の保存

本間さんは被災した土蔵を撤去するつもりだったのですが、この土蔵は震災から生き残った象徴です。残った家財ですので残しませんか、という私の提案を受け入れてくれました。専門家をお願いして建築診断をしたところ、修復して保存することは可能との



ガレキの中にたたずむ本間家土蔵。斎藤秀一撮影

土蔵のなかには、江戸時代から明治時代にかけての仕切状や帳簿などの経営文書がたく



ひらかわ・あらた  
昭和25年、福岡県出身。東北大学を名誉教授。館館長に就任した。

東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26―31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保